

全国月間火山概況

口永良部島では、火山性地震が増加するなどしたことから、火山活動が高まったと判断し、4日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を公表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

雌阿寒岳では、火山性微動が発生し、直後に火山性地震が多発したことから、火山活動が高まったと判断し、29日に火口周辺警報（火口周辺危険）を公表し、噴火予報（平常）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げました。

その他の火山で予報警報事項に変更はありませんでした。

10月7日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表1のとおりです。

表1 10月7日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、霧島山（新燃岳）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	雌阿寒岳、硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、十勝岳、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、安達太良山、磐梯山、沼沢、燧ヶ岳、那須岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、折捉焼山、折捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

（火山の順は活火山総覧（第3版）による）



図1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳

【火口周辺警報（火口周辺危険）】 9月29日に噴火予報（平常）から引上げ

26日以降、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加しました。29日14時11分頃には振幅のやや大きな火山性微動が発生、直後から火山性地震が多発したことから、火山活動が高まったと判断し、同日14時30分に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。

その後、火山性微動は観測されていません。火山性地震の発生状況は低調になっていますが、26日より前の状態には戻っていません。噴煙は火口縁上100m以下で低調に推移し、GPS観測による地殻変動の状況には特段の変化は認められません。

雌阿寒岳では1988年、1996年、2006年のごく小さな噴火が火山性地震の増加・減少を繰り返した後に発生していることから、今後しばらくの間は、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

浅間山

【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

今期間、噴火は発生しませんでした。

山頂火口の噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移しました。また、夜間には高感度カメラにより微弱な火映が時々観測されています。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いています。

11日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり800~1,300トンと前回（8月22日、一日あたり2,700~3,300トン）と比べてやや減少したものの、依然として多い状態が続いています。

浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では大きな噴石に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。また、火山ガス放出量の多い状態が続いており、風下側にあたる登山道等では、火山ガスに注意が必要です。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

10日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,300~1,700トンで、前回（2008年8月19日、一日あたり1,400~1,500トン）と同様、依然として多量の火山ガス放出が続いています。また、三宅島の火山ガス濃度観測によると、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。23日21時43分頃、山頂火口直下を震源とする振幅のやや大きな高周波地震が発生し、三宅村神着、三宅村坪田で震度1を観測しました。地震発生前後の噴煙の状況は雲のため不明でしたが、地殻変動など他の観測データに特段の変化はありませんでした。5日、14日及び23日に火山性微動が合計3回観測されましたが、いずれも継続時間の短い振幅の小さなものでした。

噴煙高度は火口縁上100~300mで推移しました。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はありませんでした。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮がわずかながら継続しています。

三宅島では、山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺では噴火等に対する警戒が必要です。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要です。雨による泥流にも注意が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過していますが、2006年8月以来みられている島全体が隆起する地殻変動は継続しています。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒) 及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われませんでした。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されています。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

中岳第一火口の湯だまりの表面温度や湯量に大きな変化はありませんでした。

地震活動は低調な状態で、孤立型微動は1日あたり100回以下で推移しました。噴煙活動や地殻変動に特段の変化はありませんでした。地磁気観測では、2006年夏頃から、中岳第一火口北側の火口に近い観測点で全磁力のわずかな増加が認められています。

阿蘇山では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口内及びその周辺では火山灰噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では火山ガスに対する注意が必要です。

霧島山(新燃岳)

[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

噴煙量の多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね400mでした。2008年8月22日の噴火以降、火山性地震の発生回数は減少していますが、噴火前に地震が増加し始めた2008年8月22日8月18日以前と比べて、やや多い状態が続いています。

GPS連続観測には、火山活動によるとみられる変化は確認されていません。

新燃岳では、今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生すると予想されることから、火口から概ね1kmの範囲で大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

桜島

[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

昭和火口では7日に1回噴火が発生しました。火砕流の発生はありませんでした。

南岳山頂火口では、ごく小規模な噴火が11日、12日及び21日に発生するなど、長期的に噴火活動が継続しています。

地震活動は低調な状態で経過しました。

5日及び19日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量はそれぞれ一日あたり900~1,800トン、500~1,300トンと前回(8月26日、一日あたり500~600トン)と比べて大きな変化はみられませんでした。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が継続しています。

桜島の昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、2008年2月には火砕流を伴う噴火が発生するなど長期的には次第に活発化している傾向がみられています。

今後、南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に影響を及ぼす程度の噴火が予想されますので、これらの火口周辺では大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発でした。噴煙の高さは火口縁上概ね300mでした。

火山性地震はやや多い状態が続いています。

硫黄岳山頂火口周辺では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島

[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)] 9月4日に噴火警戒レベル1(平常)から引上げ

2日から、振幅のやや大きな火山性地震の回数が増加し始め、4日にはさらに回数が増加し、火山活動が高まっていると考えられることから、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げました。

火山性地震は少ない状態が続いていますが、火山性微動は時々発生しています。

GPSによる地殻変動観測では、9月以降、新岳火口周辺の膨張傾向を示すわずかな変化がみられています。

4日に第十管区海上保安本部が行った観測及び6日に鹿児島県の協力を得て行った上空からの観測では、新岳及び古岳の噴気活動と地熱地帯の状況等に特段の変化は認められませんでした。

口永良部島では、依然として火山活動は高まった状態が続いており、火口の周辺に大きな噴石を飛散させる噴火が発生すると予想されるので、新岳火口から約1kmの範囲では警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生しました。ほとんどは弱い空振を伴った爆発的噴火で、噴煙の最高高度は29日の火口縁上2,000mでした。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口から約1kmの範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では警戒が必要です。

(火山の順は活火山総覧(第3版)による)

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成20年10月7日現在）

（1）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 （10月7日現在）	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年9月29日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	十勝岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	安達太良山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	磐梯山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	浅間山	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域危険）	2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒）
	九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル1、平常）
阿蘇山		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
雲仙岳		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
霧島山（新燃岳）		火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
霧島山（御鉢）		噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
桜島		火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
薩摩硫黄島		火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
口永良部島		火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
諏訪之瀬島		火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。

この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山